

**注意点1**

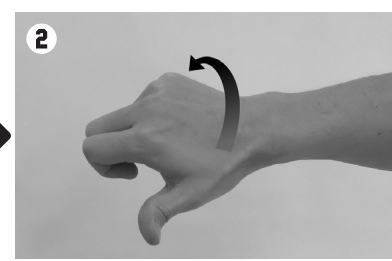
**右手**

**右手首の力みを取って  
しなやかに回転させよう!**

ここでは、実際の楽曲内でもよく耳にするオーソドックスなスラップ・パターンを練習しよう。メイン・フレーズでは、①親指で叩くサムピング、②人差指で引っ張るプル、③左指を浮かせてからサムピングするミュート音、④左手のハンマリング&プリング、という4つのテクニックを使っている。これらを巧みに組み合わせることによって、いわゆる“コンビネーション・スラップ【註】”が完成するのだ。このフレーズは、右手のサムピングが多いため、腕の力みを取って、手首をしなやかに回転させることもポイントになる(写真①~④)。また、実音とミュート音に音量差をきちんとつけようと、ノリの悪い演奏に聴こえるので気をつけよう。



サムピングを連続して行なう際には……



ドアノブを回すようなイメージを持つと良い。



イメージトレーニング。人差指を固定することで……



無駄の少ない動きを右手首に覚えさせることができる。

**注意点2**

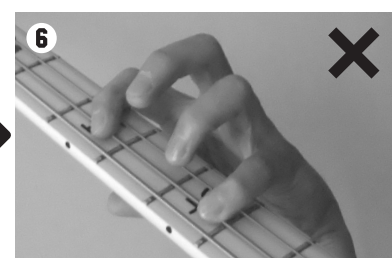
**右手&左手**

**セーハを活用して  
無駄な動きを減らすべし!**

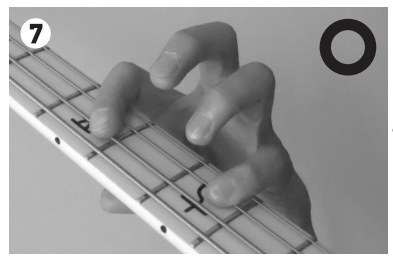
メイン・フレーズは、まず1小節目のサムピングに注意する必要がある。2拍目の3弦のミュート音から開放弦へのサムピングと、4拍目の16分音符で2音連続するミュート音は、ともに親指の連打となるため、しっかり発音できるように心掛けよう。続く、2小節目1&2拍目のミュート→プルによるプリング、ミュート→サムピングによるハンマリング、というコンビネーションも大きなポイントだ。ベースは、低音弦よりも高音弦の方がミュート音が出づらいため、高音弦を使うこの箇所では、親指をしっかり振るよう意識しよう。また、左手もセーハを利用して、スムーズに動かしてみたい(写真⑤~⑧)。気合を入れてトライせよ!



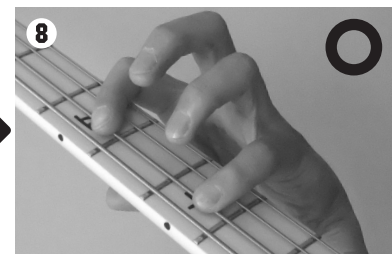
セーハを使わずに、各弦を押さえようとすると……



無駄な動きが増える。



人差指で5fをセーハすることで……



弦移動がスムーズになるのだ!

~コラム10~

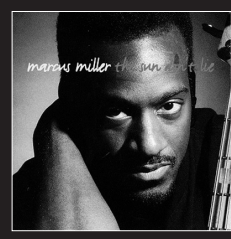
**将軍の戯れ言**

ここでは、スラップ名人を紹介しよう。まずは、バンドとしてもベーシストとしてもトップに君臨するフリー。レッチリの初期作品では豪快なスラップを堪能できる。ロバート・トゥルジロが参加していたインフェクシャス・グループも、メタリカでは聴くことのできない痛快なスラップが満載だ。そして、レス・クレイブル率いるベース主導の変態バンド、ブライマスや、高速スラップの達人、マーク・キング(レベル42)も面白い。もちろん、“元祖スラッパー”であるラリー・グラハムやルイス・ジョンソン、理想的なスラップ・サウンドを作り上げたマーカス・ミラーも鉄板だ。

**著者・MASAKI、かく語りき  
スラップ名人編**



**マーク・キング**  
『Influences』  
ファンク・フュージョン・バンド、レベル42のリーダーであるマークの1stソロ作。スラップを中心とした技巧派プレイは旺盛だ。



**マーカス・ミラー**  
『ザ・キング・イズ・ゴーン』  
デヴィッド・サンボーン、オマー・ハキム、マイルス・デイヴィスなどの名プレイヤーが参加し、エネルギッシュなプレイを聴かせる名作。

【コンビネーション・スラップ】ミュート音とハンマリング&プリングを使ったオーソドックスなスラップ奏法のことを指す。音の長さや強弱にも気を配ることで、よりグルーヴ感を高めることができるだろう。